



# 滋賀県立大学 2016年度 講義概要 (シラバス)

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) でご確認ください。

## 目 次

1601040	インターンシップC 就職指導担当教員 前期集中	・・・	1
1601050	インターンシップD 就職指導担当教員 前期集中	・・・	3
1601053	インターンシップF 就職指導担当教員 前期集中	・・・	5
1602230	ナノテクノロジーキャリアアップ特論 柳澤 淳一 前期	・・・	7
1900010	エコ・テクノロジー特論 山根 浩二 後期	・・・	9
1900020	コミュニティ・プロジェクト実習 鵜飼 修 後期	・・・	11
1900030	コミュニティ・プロジェクト実習 上田 洋平 前期	・・・	13
1900040	コミュニティ・マネジメント特論 鵜飼 修 前期	・・・	15
1900050	地域再生学特論 上田 洋平 後期	・・・	17
1900060	地域再生システム特論 鵜飼 修 前期集中	・・・	19
1900070	地域診断法特論 鵜飼 修 前期	・・・	21

講義名	インターンシップC				担当教員	就職指導担当教員 / 杉野 澄子	
講義コード	1601040	単位数	1	開講期			前期集中
ナンバリング番号	503CAR501						

#### 授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育む、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内): 事前学習レポートの提出と事前研修を受ける。
- 2) 就業体験(学外): 同一企業・団体等で5日以上9日間の就業体験をする。
- 3) 事後学習(学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

#### 到達目標

- (1) 就業体験を通して、勤労観・社会観を身につける
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入先担当者報告書(評価書)

事前研修、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

#### 授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

#### 前提学力等

原則として、院1回生

#### 履修資格



講義名	インターンシップD				担当教員	就職指導担当教員 / 杉野 澄子	
講義コード	1601050	単位数	2	開講期			前期集中
ナンバリング番号	503CAR502						

#### 授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育む、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内): 事前学習レポートの提出と事前研修・を受け。
- 2) 就業体験(学外): 同一企業・団体等で10日以上14日間の就業体験をする。
- 3) 事後学習(学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

#### 到達目標

- (1) 就業体験を通して、勤労観・社会観を身につける
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入先担当者報告書(評価書)

事前研修・、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

#### 授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

#### 前提学力等

原則として、院1回生

#### 履修資格



講義名	インターンシップF					担当教員	就職指導担当教員 / 菊地 憲次 / 杉野 澄子
講義コード	1601053	単位数	3	開講期	前期集中		
ナンバリング番号	503CAR503						

#### 授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育む、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の3セクションから構成される。

- 1) 事前学習(学内)：事前学習レポートの提出と事前研修・ を受ける。
- 2) 就業体験(学外)：同一企業・団体等で15日間以上の就業体験をする。
- 3) 事後学習(学内)：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

#### 到達目標

- (1) 就業体験を通して、勤労観・社会観を身につける
- (2) 自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
- (3) 専門知識の有用性や学習意識を高める。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	50%	1) 事前学習レポート 企業研究 インターンシップ志望動機・目的 2) 実習報告レポート
上記以外	50%	1) 実習日誌 2) 受入先担当者報告書(評価書)

事前研修・、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の4点を総合して評価する。

#### 授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を持つこと。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集(報告会で配付)

#### 前提学力等

原則として、院1回生

#### 履修資格



講義名	ナノテクノロジーキャリアアップ特論				担当教員	柳澤 淳一 / 一宮 正義	
講義コード	1602230	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	563CAR501						

#### 授業概要

ナノテクノロジー関連分野で豊富な学識と経験を持つ社会人を各回ごとに講師に招いて大阪大学で開講される「ナノテクキャリアアップ特論」の講義を、ライブ配信システムを用いて本学でも新たな講義として開講し、講義を聴くとともに講師への質疑応答をその場で行なう。

#### 到達目標

- (1) 社会におけるナノテクノロジーの活用や課題の最先端の実状が理解できる。
- (2) 日々の学業や研究活動の位置付け、あるいは社会におけるナノテクノロジーの重要性が理解できる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	75	各回の講義から自身が学んだ内容等のレポートを毎回課し、本学の担当者が評価する。
上記以外	25	最低1回は、講義の中で講師に質問すること。

出席が10回に満たない場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	エコ・テクノロジー特論				担当教員	山根 浩二 / 芦澤 竜一 / 上田 洋平 / 奥村 進 / 河崎 澄 / 作田 健 / 高田 豊文 / 野間 直彦 / 未定 * / 南川 久人	
講義コード	1900010	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	592CAT605						

#### 授業概要

下記の4つの視点を中心として、サステナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術、およびそれらを活かして持続可能な環境共生型社会を実現するための技術や制度・政策について体系的に学ぶ。

(1) 環境共生型社会の実現に関わる制度・政策：エコテクノロジーを活用して環境保全をはかり、持続可能な環境共生型社会を実現することを目指す各種の制度の事例や、今後とるべき政策について。

(2) 省エネルギーと創エネルギー：自動車や家電に代表される省エネルギー技術や、太陽、風力、バイオマスなどの新エネルギー変換技術、燃料電池やリチウムイオン蓄電池など環境調和のための発電や蓄電技術など、これらのエコ技術について。

(3) 居住設備とパッシブソーラー：住宅における冷暖房や環境に対する負荷の低下を図ることを念頭に置き、パッシブヒーティング、パッシブクーリングなど我が国の気候や地域性を踏まえた様々な環境共生型の居住設備について。

(4) 地球環境モデル地域創出のための環境技術：居住空間、複合施設、都市空間、農業・産業社会の各環境技術に対する地域の取り組みと地域づくりについて。

#### 到達目標

- (1) 主な環境技術の概略を説明できる。
- (2) 環境共生型社会の実現に向けた制度・政策の概略を説明できる。
- (3) 各種の環境技術や制度を取入れ、活用したまちづくりの提言を行うことができる。
- (4) 環境技術の経済性を推算できる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す「(1) 主な環境技術の概略を説明できる」「(2) 環境共生型社会の実現に向けた制度・政策の概略を説明できる」「(3) 各種の環境技術や制度を取入れ、活用したまちづくりの提言を行うことができる」については課題レポート(65%：毎回の授業レポート13回×5点=65点)、「(4) 環境技術の経済性を推算できる」については期末
上記以外		

#### 授業外学習

課題レポートについては授業の翌週までに作成し提出する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義内容に応じて、適宜資料を提示・配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	コミュニティ・プロジェクト実習				担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平	
講義コード	1900020	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	592CAT601						

#### 授業概要

この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。

解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。

地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。具体的には以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。

地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。  
 デザインシャレットやワークショップといった集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。  
 大量の情報や議論をうまく扱い、より広範囲の選択肢を示しながら、容易ではない合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。  
 コスト、日程、法規、材料、技術、自然環境といった与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。現実のプロジェクトで起こりがちな未知のことに遭遇し対処していくことで体得できる、問題解決に対する即応性や柔軟性。

#### 到達目標

- (1) 自身の適性と能力を的確に把握した上で、目標及び評価基準を適切に設定することができる。
- (2) 地域診断等の手法を応用して地域課題や地域資源を的確に把握することができる。
- (3) 地域課題や地域資源の状況に応じて、必要な手法を的確に採用しながらプロジェクトを遂行することができる。
- (4) 自身の役割や立場を明確にしたうえで、関係者の合意を形成しながらプロジェクトを遂行することができる。
- (5) 人材を含む地域資源、時間、予算等の与件をマネジメントしながら計画的にプロジェクトを遂行すること、及び現実の遂行段階における状況変化に的確に対応することができる。
- (6) 地域課題の解決や地域再生に資する結果を適切に総括し、客観的に評価し、今後の展開・発展のために取りまとめることができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す、(1)については自己評価シート(40%)、(2)~(5)についてはゼミでの報告(40%)、(6)については成果報告資料及びプレゼンテーション(20)により評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミにおいて適宜配布する。

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	コミュニティ・プロジェクト実習				担当教員	上田 洋平 / 鶴飼 修 / 河崎 澄 / 高田 豊文 / 山根 浩二	
講義コード	1900030	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	592CAT602						

#### 授業概要

エコ・テクノロジー特論と関連してその内容を実践的に修得することをねらいとする。実習では、主にサステナブル・デザインに必要な自然エネルギー利用技術、パッシブソーラーを取り入れた木造建築技法などについて課題を抽出し、その解決能力を養う。

##### 1) 自然エネルギー利用技術

太陽光発電システムおよびバイオ燃料発電システムに関するデータ収集と解析技術を修得する。

##### 2) 自然素材利用技術

地域の特性を踏まえた様々な技術の中から、木工技術等の実習を通じて、その身近な環境問題解決に向けた技術の一端を習得する。

#### 到達目標

- (1) エネルギー系：バイオディーゼル燃料の特性及びその活用のあり方について理解し説明することができる。
- (2) エネルギー系：太陽光発電の特性について理解し、地域の条件に応じた活用方法をシミュレーションすることができる。
- (3) 木工系：土や木をはじめとする自然素材の特性とその利用技術について理解し応用することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	エネルギー系50点 + 木工系50点 = 合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 到達目標に示す(1)(2)については実験及びシミュレーションを踏まえたレポート(50%)により評価する。
上記以外	50	到達目標に示す(3)については、木工制作(50%)により評価する。

#### 授業外学習

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	コミュニティ・マネジメント特論				担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平 / 細馬 宏通	
講義コード	1900040	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	592CAT604						

#### 授業概要

まちや地域のダイナミックスを創り上げている「人的、文化的、自然的」リソースに着目し、それらをうまく活用する社会的、制度的、経済的な仕組みを理解し、活用する方法について学ぶ。  
 コミュニティ・アーキテクト（以下C A）の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの 概要把握、 特性把握、 マネージメント手法、 創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるC Aの育成をめざす。

#### 到達目標

コミュニティ・アーキテクト（以下C A）の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの 概要把握、 特性把握、 マネージメント手法、 創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるスキルを獲得する。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回の授業内容に対してレポートを課す。
上記以外		

理解度確認ふりかえりテストにて合格水準に達しない場合は追加レポートを課す。

#### 授業外学習

ビジネスプランの作成は宿題

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	3日でマスターできるコミュニティ・ビジネス起業マニュアル	細内信孝, 鶴飼修	ぎょうせい	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	マネジメント(エッセンシャル版)	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社	
2	影響力の武器 実践編	N.J.ゴールドスタインほか	誠信書房	
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	地域再生学特論				担当教員	上田 洋平 / 濱崎 一志 / 布野 修司	
講義コード	1900050	単位数	2	開講期			後期
ナンバリング番号	592CAT606						

#### 授業概要

地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、滋賀県内各地で現に展開中の生まれの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。

#### 到達目標

- (1) 滋賀県各地域の自然、歴史、文化の特性と地域課題とその解決の方向性について理解し説明できる。
- (2) 滋賀県下における風土に根差した地域再生の取り組みについて理解し説明できる。
- (3) 地域再生に取り組む「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割、求められる能力について説明できる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30	到達目標に示す(1)については期末試験(30%)により評価する。
レポート課題	70	到達目標に示す(2)及び(3)については毎回のレポート(70%)により評価する。
上記以外		

#### 授業外学習

小レポートは翌週授業までに所定の方法により提出する。  
小試験は実施しない。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

#### 履修資格



講義名	地域再生システム特論				担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平 / 轟 慎一	
講義コード	1900060	単位数	2	開講期			前期集中
ナンバリング番号	592CAT607						

#### 授業概要

地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主導的に取り組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーションの手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。

- 1) 夏期3日間の集中講義として行う(フィールドワークはこのうち1日)。
- 2) 学生、院生(社会人学生含む)混成によるチームを編成し、フィールドワークやワークショップに臨む。
- 3) フィールドワーク先や課題は地域の行政等から紹介・提起を受け、ホットでリアルなフィールドや課題に挑む。
- 4) 地域住民や市民団体、地域の行政職員等、地域の方々と共に歩き、考え、具体的な企画・提案を作成する。

#### 到達目標

- (1) 地域課題の把握から解決に向けた計画の作成、解決に向けたアクションとその評価・改善までの一連の流れを理解し説明することができる。
- (2) 地域の関係者とのコミュニケーションを通じて地域の現状・課題を的確に把握することができる。
- (3) 地域資源や地域課題の現状に即した適切なフィールドワークやワークショップを企画し実施することができる。
- (4) 地域の関係者の意見を適切に引き出し整理して適確な地域再生提案を作成することができる。

#### 成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す(1)については中間レポート(30%)により、(2)(3)(4)については最終レポート(50%)及びプレゼンテーション(20%)により評価する。

#### 授業外学習

フィールドワーク先地域関係者及びワークショップ参加者のコーディネート、提案作成等、授業時間外での活動を必要に応じて実施する。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

#### 前提学力等

地域診断法特論及びコミュニティ・マネジメント特論を履修済みであることが望ましい

#### 履修資格



講義名	地域診断法特論				担当教員	鶴飼 修 / 高田 豊文 / 水野 章二	
講義コード	1900070	単位数	2	開講期			前期
ナンバリング番号	592CAT603						

#### 授業概要

地域再生への取り組みは、初めに地域特性を適切に把握・評価することから始まる。この授業では、地域における、環境、文化、経済等の特性を、さまざまな側面にわたる調査データおよび既存データを駆使して読み解く技術と、分析、評価するための手法を示す。また、地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。具体的には地域診断の基本理念と手法を学んだ後、特定地域の課題解決を念頭に地域を構成する様々な属性（レイヤ）毎の診断・評価手法を学び、最後には、履修生自身が各講座で得られた知見を踏まえて総合的な診断を実施し、それらの診断をもとにした地域再生提案をとりまとめる。

#### 到達目標

地域診断法の理念と手法を説明できる。  
 地域特性を客観的に分析・評価することができる。  
 エコロジカルプランニングを用いた地域診断を実践できる。  
 地域診断を踏まえた地域再生・活性化の提案ができる。

#### 成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業各回でミニレポートを課す。
上記以外	30	グループで地域診断を実践し、地域再生提案を作成・プレゼンテーションする。

最終回に理解度確認ふりかえりテストで合格点に達しない場合は追加レポートを課す。

#### 授業外学習

グループでの地域診断では授業外に活動することもある。

#### 教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	地域診断法	鶴飼修	新評論	
2				
3				

#### 参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	日本地誌		二宮書店	
2				
3				

各地の郷土史

#### 前提学力等

#### 履修資格

